

# おおいた市 農林水産MAP

### ③ 大分市公設地方卸売市場

「せり」などを行って野菜や魚などの値段を決める場所です。全国各地や海外からも様々な野菜や果物、魚、花などが集められます。



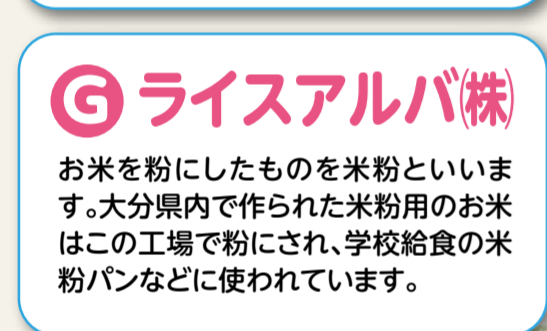
### ④ JAおおいた

農家が作った野菜などを集めて、販売を行う組織です。そのほかにも、農家のために野菜などの作り方を教えたり、肥料や農薬の販売などもします。



### ⑤ 九州乳業(株)

大分県でしぼられた牛乳のほとんどがその日のうちに集められ、検査・殺菌されたのち、「みどり牛乳」として給食などで飲まれています。



### ⑥ ライスアルバ(株)

お米を粉にしたものを米粉といいますが、大分県内で作られた米粉用のお米はこの工場です。米粉は学校給食の米粉パンなどに使われています。



### 野津原地区

宇曾山などの山々に囲まれ、地区の中心を七瀬川が流れています。山間部の地理をいかした椎茸栽培や柿の栽培、肉用牛の飼育などがさかに行われています。

### ⑧ 柿

野津原を代表する秋の味覚「豊の七瀬柿」。炭酸ガスを使って渋を抜いた種のない柿で、甘さややわらかさが特徴です。七瀬柿は主に福宗地区で栽培され、秋になると、きれいに植えられた柿畑がいつせいに色づきます。



### ⑨ 和牛

野津原地区では、子牛を産んで育てる農業が営まれています。子牛は生まれて10か月程育てられた後、各地の農家に売られていきます。大分の子牛は、主に豊後牛や佐賀・長崎・兵庫などのブランド牛になります。



### ⑩ しいたけ

大分県は乾しいたけの生産量が日本一です。また品評会でも常に上位を受賞するなど品質もとてもよい全国ブランドの産品です。

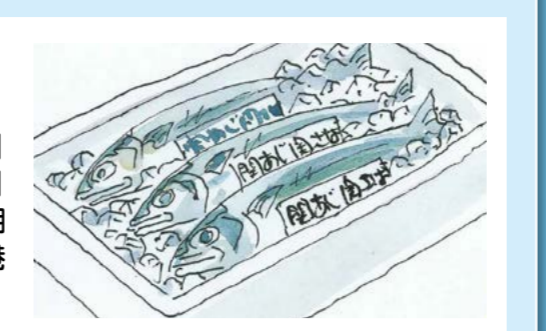


### 佐賀関地区

流れの速い豊後水道の海では、身の引き締まった関あじ・関さばがとれ、昔から漁業がさかんです。また沿岸部では、みかんなどの栽培が行われています。

### ① 関あじ・関さば

高級魚として有名な「関あじ・関さば」は、魚を傷つけないように「一本釣り」で漁を行います。佐賀関の海では、潮が止まり漁を終えた船がいつせいに港に帰ってくる風景をよく目にします。



### ② クロメ

佐賀関の高島の周りの海で1月から3月までしかとることが許されていないクロメは、ねばりが強いのが特徴です。海岸でクロメを手で巻く風景は佐賀関の冬の風物詩です。

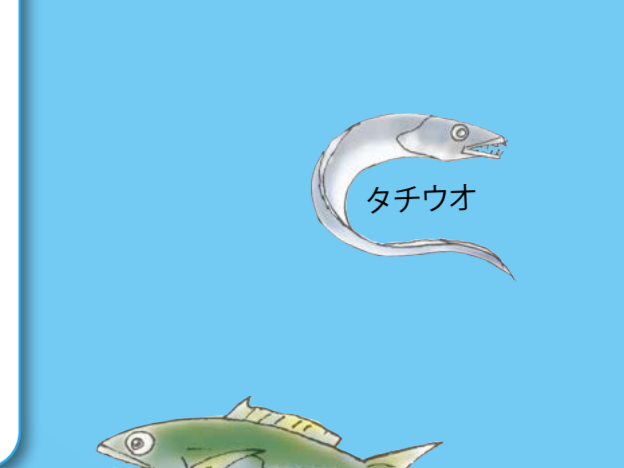
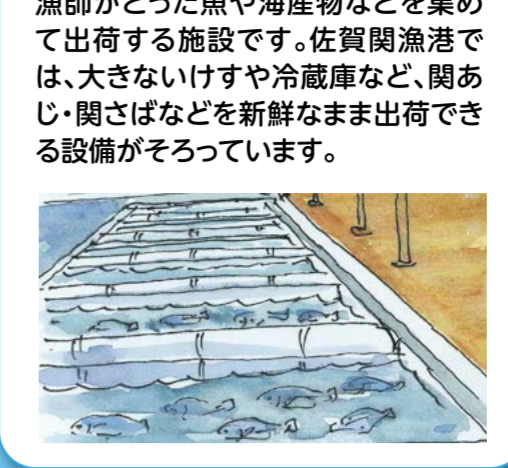
### ③ 甘夏

甘夏は大分県がふるさとのみかんです。暖かくなり始めた頃、佐賀関沿岸の木々に黄色の実が色づき始めたら、甘夏の季節の到来です。



### ④ 大分県漁業協同組合 佐賀関支店

漁師がとった魚や海産物などを集めて出荷する施設です。佐賀関漁港では、大きないけすや冷蔵庫など、関あじ・関さばなどを新鮮なまま出荷できる設備がそろっています。



### 鶴崎地区

大野川流域に広がる平野部では、お米をはじめ様々な農産物が作られています。なかでも高田地区と川添地区では水はけの良い土地をいかした野菜作りがさかんです。

### ⑤ いら

大分市は、日本でも有数のいらの産地で、なかでも川添地区は特に栽培がさかんです。高速道路に乗って大野川を東に向かって渡るとすぐに、たくさんのにらハウスが見えます。

### ⑥ 大葉

大分市は西日本一の大葉の産地です。高田地区には、台風にも耐えられる頑丈な大葉の施設がたくさんあります。夜は、花が咲いたり、虫が付いたりしないようにするために、施設を黄色い明かりで照らしています。



### 大分地区

市街地や住宅地のすぐそばにも農地があり、様々な農産物が栽培されています。一方、高崎山を望む日当たりの良い斜面では、びわやみかんなどの栽培がさかんです。

### ⑦ びわ

びわは、上品な甘み特徴の初夏の果物です。実が大きくなり始める春、別大国道の山側には、病虫や虫からびわを守るための紙袋が木々に点々と咲いています。



### 大南地区

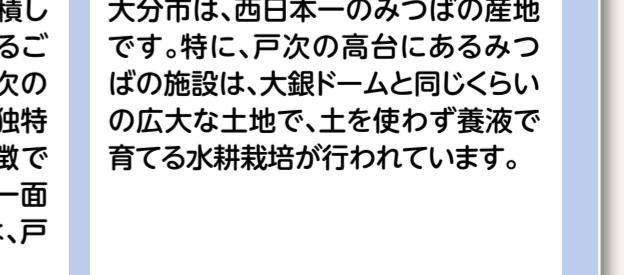
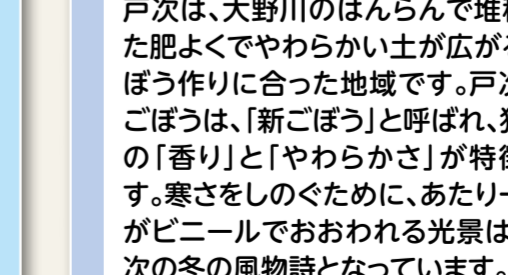
大野川沿いの、肥よく水はけが良い畑では、様々な野菜の栽培がさかに行われ、大野川の支流には水田地帯が広がっています。一方、山間部では、畜産が営まれるとともに、果物や椎茸の栽培も行われるなど、ここ大南地区は大分市の台所といわれています。

### ⑬ ごぼう

戸次は、大野川のはらんで堆積した肥よくやわらかい土が広がるごぼう作りに合った地域です。戸次のごぼうは、「新ごぼう」と呼ばれ、独特の「香り」と「やわらかさ」が特徴です。寒さをしのぐために、あたり一面がビニールでおおわれる光景は、戸次の冬の風物詩となっています。

### ⑭ みつば

大分市は、西日本一のみつばの産地です。特に、戸次の高台にあるみつばの施設は、大銀ドームと同じくらい広い土地で、土を使わず養液で育てる水耕栽培が行われています。



### 植田地区

商業地の辺りも、その昔は一面が田んぼでした。今でも大分市有数の米どころです。その他にもいちじくやいちごの栽培がさかんです。

### ⑪ いちじく

大分市を代表する果物であるいちじくは、ここ植田地区から栽培が始まりました。野津原地区に向かう途中で、いちじくのハウスを見ることができます。

### ⑫ 米

大分川中流域の平野部は、水田地帯が広がるお米の一大産地です。この地域では、お米と麦を作る二毛作がさかに行われ、5月には黄金色の麦畑が一面に広がります。

